==========

HITACHI エンタープライズサーバ EP8000 シリーズ　マシンコード来歴

==========

EP8000 Power10 S1014(9105-41B)/S1024(9105-42A)

ファームウェア変更内容と来歴

	変更内容
ML1060_199_053 /FW1060.82	・CVE-2026-53006 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-31669 及び CVE-2026-43198 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-16678 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-19492 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17413 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17503 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17504 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17511 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-18870 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-43198 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-16682 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17426 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-18857 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96265 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96262 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96264 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96261 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96266 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-96263 のセキュリティ問題を修正しました。 ・DDR5 DDIMM でメモリーリフレッシュが失敗する問題を修正しました。 ・CVE-2026-16724 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-18849 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-16938 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-16933 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-18871 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-16930 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17429 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17063 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17100 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17093 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-19234 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-19321 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-18821 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17028 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17414 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17091 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-17097 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-4936 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-4937 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-15961 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-45447 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-52943、CVE-2026-43373 及び CVE-2026-43194 のセキュリティ問題を修正しました。
ML1060_185_053 /FW1060.80	・ENZO IO ドロワの PCIe リンク劣化などにより、ケーブルまたは関連ハードウェアが被疑部位として指摘される問題を修正しました。SRC B7006AA9 が記録されます。ケーブルが最近交換されていた場合、被疑部位に正しい部品番号またはシリアル番号情報が含まれない可能性があり、また、本来は片方のみを指摘すべき場合でも両方のケーブルが含まれる可能性があります。 ・CVE-2026-11885 のセキュリティ問題を修正しました。 ・VIOS クライアント LPAR の仮想ストレージに一時的な中断が発生する可能性がある問題を修正しました。この問題は、HWMC から別の VIOS クライアント LPAR に対して即時シャットダウンまたは即時リブートを実行した場合に発生する可能性があります。VIOS で EEH イベントが発生し、その結果として仮想ストレージの I/O が一時的に中断される可能性があります。この修正により、これらの操作中でも未完了の I/O 要求が正常に完了できるようになります。 ・I/O Reporting (IOR) 区画が起動に失敗し、SRC BA218000 および BA210000 を記録する問題を修正しました。この問題は、HWMC の「Create System Plan」機能を使用した場合や、「Hardware discovery mode」でシステムの電源を入れた場合など、IOR が開始されるたびに発生します。

	・HTTP クライアント接続の試行が短時間に連続して発生すると、eBMC アプリケーションがコアダンプし、BMCDUMP が生成される問題を修正しました。この修正により、高頻度の接続がアプリケーション障害なしに正常処理されるようになります。 ・インバンドコード更新が SRC BA278006 で断続的に失敗する問題を修正しました。 ・システムがシステムクロックエラーを検出した際に、メモリーFRU が誤ってコールアウトされる問題を修正しました。 ・過剰な接続要求からの eBMC の回復を改善し、HWMC 上で「No connection」になるのを防ぐよう修正しました。 ・ASMI を使用してファームウェアのバックアップ・イメージを running に切り替えた際に、「Step 1」の情報ポップアップメッセージが表示されない問題を修正しました。 ・ASMI ユーザーが証明書を追加する際に、「Certificate Type」フィールドのオプションを表示できない問題を修正しました。 ・eBMC が静止状態に変わり、SRC BD8DC201 と BMCDUMP が生成される問題を修正しました。 ・ASMI の現在ページがナビゲーションバーでハイライト表示されない問題を修正しました。 ・ASMI でハイパーリンクから新しいタブで開いた場合に、Health、Power、および Profile Settings ページを読み込めない問題を修正しました。 ・複数の Redfish セッションが切断された場合に、ASMI 上でエラーが表示される問題を修正しました。 ・eBMC の重要サービスの起動中に、BMCDUMP がトリガーされるような eBMC のリセット/リロードが発生すると eBMC が静止状態となる問題を修正しました。 ・許可される最大接続数に達したことに関連する eBMC 接続問題について、ログ記録を改善しました。 ・CVE-2026-8058 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-7868 のセキュリティ問題を修正しました。 ・既存の問題に対する fault reminder SRC(BD50F138)を無効化するための新しい ASMI オプションを追加しました。BD50F138 は発生しなくなりますが、根本的な問題は引き続き存在するため、ユーザーはその問題への対応を忘れないようにする必要があります。新しい問題については BD50F138 が再び発生し、再度抑止する必要があります。 ・PM Complex のロードまたは起動に失敗した後、システムがセーフモード（低パフォーマンス）に移行し、BC8A2616 エラーを記録することを防止する修正です。 ・CVE-2026-4932 のセキュリティ問題を修正しました。このセキュリティ修正を有効にするためには、サーバの再起動が必要です。 ・CVE-2025-66199 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2026-22796 のセキュリティ問題を修正しました。 ・まれに、Virtualization Management Interface または Runtime Processor Diagnostics から first failure capture data (FFDC)を収集できない問題を修正しました。この問題は、256 MB の Logical Memory Block size (LMB)を使用することで減らすことができます。 ・HWMC 上でサーバステータスが Incomplete となり、HWMC の"Recover system"操作によって Incomplete 状態を回復できない問題を修正しました。この問題は、新しいパーティションがサーバ上に作成されたが、パーティションの作成が完了していない場合に発生します。この修正により、システム ファームウェアはパーティションの作成が完了したことを検証し、パーティション表現の不整合を同期できます。 ・ハイパーバイザーがシステム上のメモリを過剰に構成し、HWMC 上でメモリ量の認識誤りとエラーを引き起こす可能性がある問題を修正しました。 ・ハイパーバイザーの障害が原因でシステムがダウンしたときに、SYSDUMP に正しい SRC が含まれないという問題を修正しました。 ・EC72(10Gbit RoCE SFP28 アダプタ)の熱問題を修正しました。この修正には、このアダプタの冷却を強化するための変更が含まれます。 ・eBMC の Gateway に 0.0.0.0 以外のアドレスを設定し、かつその IP アドレスのホストがネットワーク上に存在しないときにネットワークが不通となる問題を修正しました。 ・SRC BD561009 が発生する問題を修正しました。 ・クロック障害によるシステム・チェックストップ解析中にヌル・ポインター例外が発生する問題を修正しました。 ・システム クラッシュ障害の分析が失敗し、first failure data capture(FFDC)が失われる可能性がある問題を修正しました。 ・ASMI を使用してファームウェアをアップデートしたときに、「Step 1」情報のポップアップメッセージが表示されない問題を修正しました。 ・ハイパーリンクを介して開いた ASMI ページに新しいタブでアクセスできない問題を修正しました。 ・ASMI PCIe トポロジページに正しい情報が表示されない問題を修正しました。 ・ASMI のボタンがローディングバーと重なっていた問題を修正しました。 ・ASMI の PCIe トポロジ ページが常に空になる問題を修正しました。 ・ASMI でホスト名を変更した後、ASMI のページが更新されるまで自動的にログアウトせず、ホスト名が更新されない問題を修正しました。 ・ASMI のテーブル検索またはフィルタが結果を返さないときに、誤ったメッセージを表示する問題を修正しました。 ・ASMI の SNMP アラートで空の IP アドレスを送信しても、エラーメッセージが表示されない問題を

	修正しました。 ・ASMI の Audit logs ページで日付フィルタを適用すると、エントリが正しくフィルタリングされない問題を修正しました。 ・ASMI の Audit logs ページの検索バーに「service」と入力すると、他のエントリも表示される問題を修正しました。 ・ASMI の[Hardware Deconfiguration] ページにて手動で構成解除したコアを再構成しているときに[Settings] 列を並べ替えると、予期しないメッセージが表示される問題を修正しました。 ・ASMI の Capacity on Demand ページで Activation code を更新すると、エラーメッセージと成功メッセージが表示される問題を修正しました。 ・ASMI のポップアップメッセージの「Refresh」をクリックした際に、Overview ページに移動する問題を修正しました。 ・ASMI の Policies ページの Secure version lock-in 設定トグルが正しく機能しない問題を修正しました。 ・ダンプが .txt 拡張子でダウンロードされる問題を修正しました。 ・ASMI にてユーザーが自分のアカウントを削除した後にエラーメッセージが表示される問題を修正しました。現在ログインしているアカウントを削除した場合にのみ発生します。 ・ASMI の Server power operations で[Continue to OS Running]をクリックするとエラーが表示される問題を修正しました。 ・Chrome および Edge ブラウザーを使って ASMI で新しいユーザーを追加しているときに、privilege を選択するとエラーが表示される問題を修正しました。 ・ハイパーリンク経由で新しいタブで ASMI のホストコンソールを開いた際に、ホストコンソールを読み込めない問題を修正しました。 ・ASMI の Event logs でテーブル内のイベントログエントリが選択されていない場合、ユーザーがチェックボックスをオフにできないという問題を修正しました。 ・システム・チェックストップ解析中のエラー出力の問題を修正しました。 ・CVE-2025-8194 のセキュリティ問題を修正しました。 ・テスト中に、予防的エラーが不正確かつ不必要にフラグされていた問題を修正しました。この修正により、これらの予防的エラーを監視するために設定されているフラグが再構成されます。 ・CVE-2025-52497 と CVE-2025-49087 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2025-38556 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2025-36238 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2025-36194 のセキュリティ問題を修正しました。 ・ハードウェアの交換時に OS 上で仮想デバイスを削除しなかったときに、仮想デバイスへの割り当てが解除される可能性のある問題を修正しました。 ・PCIe スイッチの 1 つのスロットの初期化が失敗した場合でも、残りのスロットを引き続き構成するように修正しました。 ・Virtualization Management Interface(VMI)の問題で、リソースダンプが採取される問題を修正しました。この問題により、SRC BD8D6025 と SRC BD8D6029 が発生します。 ・全ての TPM (trusted platform module) が故障した時に、LPM (live partition migration) がブロックされたり、CoD Code を適用できなくなったりする問題を修正しました。 ・SMS にて、次の操作で Boot の優先順位が正しく表示されない問題を修正しました。 SMS options: 5 (Select Boot Options) -> 1 (Select/Install boot device) ->5 (List all Devices). 次の操作で本問題を回避することができます。 SMS options: 5 (Select Boot Options) -> 2 (Configure Boot Device Order) -> [ESC]2 回-> 5 (Select Boot Options) -> 1 (Select/Install boot device) -> 5 (List all Devices).″ ・Dedicated LPAR にプロセッサを追加する際に、最適なプロセッサを追加するように改善しました。 ・SRC B2001230 が発生しているときに IO 構成の変更や LPAR の削除を実施すると、SRC B700F105 を伴ってシステムがダウンする可能性がある問題を修正しました。 ・Mx1060_129 へのアップグレード後に A7001152 が報告される問題を修正しました。 ・FW1050 以前のファームウェアから FW1060 にコードを更新した後に、HWMC 用のサーバのステータスが、No connection となる可能性のある問題を修正しました。 ・プロセッサの故障によるエラー発生時に、SRC の指摘部位が正しくない可能性がある問題を修正しました。 ・eBMC のメモリエラー発生時にエラーログが作成されない問題を修正しました。 ・ASMI の Sensors ページの Status に関するヘルプ テキストを修正しました。 ・SRC BC8A264F を作成しない問題を修正しました。 ・eBMC が BD8DC201 を伴って予期せずリブートする可能性のある問題を修正しました。 ・ASMI の読み取り専用アカウントの変更でエラーメッセージが表示される問題を修正しました。 ・ASMI の Inventory and LED page に無効な文字が表示される問題を修正しました。 ・ASMI の fabric adapters 情報が欠落する問題を修正しました。 ・稼働中に eBMC がリブートしたときに、予期せぬ BMCDUMP が採取される可能性がある問題を修正しました。 ・ASMI の Capacity on Demand ページの [Processor Information] と [Memory Information] の [Previously Activated] と [Entry Check] にデフォルト値が表示されていた問題を修正しました。

	・ASMI の読み取り専用アカウントで許可されていない操作を実施したときに、エラーメッセージが表示されない問題を修正しました。 ・ASMI にて実際のチェックボックスではなく、テーブルのフィルターチェックボックス名をクリックできてしまい、テーブルのフィルターが解除されてしまう問題を修正しました。
ML1060_129_053 (FW1060.50)	・CVE-2023-1206 および CVE-2024-35857 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2025-0395 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2025-2884 のセキュリティ問題を修正しました。 ・サーバの起動および LPAR の起動中に、フィーチャーコード EN1A の PCI リンクトレーニングが失敗して SRC BA180020 が発生する可能性がある問題を修正しました。 ・eBMC の工場出荷時設定へのリセットが要求されたときに Informational PEL が作成されるように変更しました。 ・eBMC と HWMC との通信性能を向上させるために、重複するプログレスコードの数を制限するように変更しました。 ・HWMC 上でサーバの VMI が「No Connection」状態になる問題を修正しました。HWMC lssysconn コマンドでは、vmi_state=No Connection と表示します。 ・HWMC の lpcfgop コマンドを使用して LPAR の構成データを消去すると、エラーHSCL0225 で失敗する問題を修正しました。 ・eBMC のリブート中に SRC BD5C3005 および SRC A7001152 が発生する問題を修正しました。 ・サーバの起動が、SRC C700406E でハングする可能性がある問題を修正しました。サーバの再起動により回復させることができます。 ・TPM ヘルスチェック中に発生する TPM エラーSRC B7009009 をログに記録しないように変更しました。 ・LPAR のプロセッサ構成変更の失敗または部分的な完了に関する問題を修正しました。プロセッサ構成の変更を再試行することで完了します。 ・コアハードウェア障害後にシステムまたはパーティションがハングする可能性のある問題を修正しました。コアハードウェア障害のために、SRC BC13E504 が生成されます。 ・潜在的なサーバハングの問題を修正しました。 ・eBMC ASMI の PCI トポロジーオプションが機能せず、HWMC 状況が「No connection」状態に変わることがある問題を修正しました。 ・eBMC の再起動後のイベントログを取得するための redfish call に対して HTTP 500 エラーステータスが返される問題を修正しました。 ・システムタイプがサポートされていない場合に、正しい FRU コールアウトでエラーログが作成されないという問題を修正しました。 ・外部シャーシが ASMI に表示されないという問題を修正しました。 ・eBMC ダンプ開始直後にシステムダンプ（サーバ停止を伴う）を収集できるように変更しました。 ・eBMC ネットワークで、Static を使用した HWMC との直結接続が失敗する問題を修正しました。eBMC はパケットを HWMC に経路指定できないため、サーバのステータスが No Connection になります。 ・SRC BD602803 を報告する可能性がある問題を修正しました。 ・Power cap が Disabled の時に、ASMI の[Overview]ページに Power cap value が表示される問題を修正しました。 ・読み取り専用ユーザーが ASMI の[Event logs]ページでエラーが発生した場合でも、[Resolve]の値が更新される問題を修正しました。 ・eBMC ブートの早い段階で重大な eBMC サービス障害が発生したときに、eBMC が誤って準備完了状態に移行する問題を修正しました。これが発生すると、SRC BD8D3404 がログに記録されます。このような状況では、eBMC は静止状態のままにし、システムの起動を許可しないようにする必要があります。 ・SRC BxxxE51x に対して、構成解除する不良ハードウェアのポリシーを修正しました。 ・読み取り専用ユーザーが ASMI の[Inventory]ページと[LED]ページで[Lamp test]を切り替えると、System table entries が消える問題を修正しました。 ・eBMC が予期せずリブートし、SRC BD8DC201 がログに記録される問題を修正しました。 ・エラーポップアップのタイトルに ASMI のエラーであることが示されない問題を修正しました。 ・ASMI で BMCDUMP を作成中に誤ったエラーメッセージが表示される問題を修正しました。 ・eBMC の NCSI デバイスドライバの問題を修正しました。 ・SRC BxxxE510 の Word 8 が 06B90010 から 06B90015 の範囲の回復不能なシステム障害に対して、サービス手順を変更しました。 ・デバッグデータ収集の失敗を適切に処理できるように変更しました。 ・eBMC の Linux カーネルバージョンを更新しました。 ・SRC BC20E504 と同時に特定のメモリエラーが報告されると、故障部位の指摘が正しくない問題を修正しました。 ・DDR5 メモリ特性を OS インベントリに正しく報告するように修正しました。機能的な影響はありません。 ・特定の複数の DIMM エラーが立て続けに発生すると、不要な部品交換を要求する可能性がある問題を修正しました。 ・DDIMM 上の電源 IC デバイスへの通信障害の組み合わせにより、障害の原因となった部分を示すログを残さずにサーバの起動が失敗する可能性があります。この修正により、障害のある DDIMM が正しく呼び出され、構成解除されます。 ・CVE-2024-2511 および CVE-2024-41007 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2024-13176 のセキュリティ問題を修正しました。

	・メモリコントローラの拡張プリフェッチの動的最大値を減らして、チャネルタイムアウトにつながる可能性のあるクレジットデッドロック状態を防止するように修正しました。 ・B7006A23 などのスイッチエラーのログを保持するように修正しました。一部のエラーは、正しく記録されていませんでした。この修正により、完全なエラーデータを含む適切なロギングが保証されます。 ・パーティションのセキュアブート設定変更後の最初のパーティションブートでパーティションの設定が有効にならない問題を修正しました。設定が有効にならない場合、後続のパーティションブートで有効になります。この修正により、設定を変更した後の最初のパーティションブートでセキュアブート設定を有効にすることができます。 ・パーティションのリブート中に Platform Keystore (PKS) コンシューマパスワードがリセットされないことがある問題を修正しました。この問題は、パーティションの実行中に PKS を無効にしないことで回避できます。この問題が発生した場合は、PKS を有効にしてパーティションを再起動することで、解消することがあります。それでも解消しない場合は、サーバの再起動が必要です。 ・Live Partition Mobility(LPM), Dynamic Platform Optimization (DPO), メモリのデコンフィグレーションまたはメモリミラーリングのデフラグ中にパーティションがクラッシュしてハングする可能性がある問題を修正しました。ハングから回復するために、パーティションの再起動が必要です。 ・稼働中の eBMC リブート後に一部の FRU がクリティカル状態になる問題を修正しました。 ・VPD ECC の 1 ビットフリップエラーによって VPD が破損する問題を修正しました。 ・ASMI の"PCIe hardware topology"ページの Identify LEDs に表示される IO スロットが消えて再び表示される問題を修正しました。 ・Admin 権限をもつユーザーが ASMI を介してリソースダンプを生成するときにパスワードフィールドが表示される問題を修正しました。 ・読み取り専用権限を持つユーザーが、ASMI を介してファンおよび電源装置の識別 LED を有効/無効にできる問題を修正しました。 ・読み取り専用権限を持つユーザーが、ASMI の"Network"ページでトグル・ボタンを有効/無効にできる問題を修正しました。 ・まれに、SRC BC8A010A でサーバの起動に失敗する問題を修正しました。サーバの再起動で回復する場合があります。 ・サーバ起動時、オペレータパネル LCD を操作して Function 12 や 13 を表示すると、プログレスコードが変更するたびに Function の表示が消える問題を修正しました。 ・ASMI の"LDAP"ページで、"User ID attribute"フィールドと"Group ID attribute"フィールドを空白で保存したときにデフォルト値に更新されない問題を修正しました。 ・eBMC が予期せずリブートし、SRC BD8DC201 が発生する問題を修正しました。 ・ASMI で NVMe JBOF アダプタ(CCIN: 6B89、FC: EJ1X) の IO スロットが欠落していた問題を修正しました。 ・設定可能な最大 FCO 値が 0 として表示される問題を修正しました。 ・読み取り専用ユーザーとしてログインし、"Inventory and LEDs" ページのハードウェア コンポーネントを操作すると、"no items available"というエラーが発生する問題を修正しました。 ・ASMI で無効な認証情報を使って Resource dump を生成する際にエラーメッセージが表示されない問題を修正しました。 ・ASMI の Resource Management ->Memory ページで行われた変更が次回のサーバ再起動後に有効になることがユーザーに通知されない問題を修正しました。 ・メモリ DIMM やプロセッサの deconfigure や configure が失敗したときに、正しいエラーメッセージを表示しない問題を修正しました。 ・DHCP NTP サーバリストが確実に表示されるように修正しました。 ・ファンが高速で回転し続ける問題を修正しました。 ・オペレータパネル LCD の Function 11, 12 及び 13 がプログレスコードに対して有効になっていない問題を修正しました。 ・SRC BxxxE510 によるシステム起動障害にて、ハードウェア交換で故障部位を切り分ける指示をしていた問題を修正しました。エラーログに、ハードウェア交換ではなくレベル 2 サポートへの呼び出しを記載するように変更しました。 ・プロセッサーの問題に関するエラーログが誤った部品を指摘する問題を修正しました。 ・システムクラッシュを伴う SRC BD70E511 が正しい故障部位を指摘するように修正しました。 ・SRC BC8A161E で起動に失敗する問題を修正しました。・CVE-2023-52881 のセキュリティ問題を修正しました。 ・DDIMM の OMI レーンのデグレードを予防するために、VDD 電圧を上げました。 ・Power Hypervisor のデッドロックにより、HWMC との接続が Incomplete になったり、プラットフォームおよび仮想化管理機能が失われたりする可能性がある問題を修正しました。この問題は、システム稼働中にシステム装置から部品を取り外した場合に発生することがあります。 ・Platform keystore (PKS)にて 3k key をサポートしました。 ・エラーログ BA540010 を伴って LPAR をブートできない問題を修正しました。このエラーは、セキュア・ブート変数 SBAT (Secure Boot Advanced Targeting) をサポートする OS がインストールされ、OS セキュア・ブート設定が Enabled and Enforced に設定されている場合に発生します。 ・関連するエラーログがクリアされたときに、ハードウェア構成解除レコードが ASMI を介して表示されない問題を修正しました。 ・PCIe アダプタが eBMC スタンバイ状態でシステムから削除された場合、PCIe カードのプレゼンスプロパティ

	が更新されない問題を修正しました。 ・アイドル時の省電力値が ASMI の overview ページに正しい情報で更新されない問題を修正しました。 ・まれに、システムの電源オンが失敗する問題を修正しました。SRC BC8A1703 は、この障害が発生した場合にも表示されます。 ・まれに、ホスト障害が発生したときに eBMC がホストダンプを収集できず、障害に関する詳細情報を提供できない問題を修正しました。 ・両方の eBMC イーサネットインターフェイスでゲートウェイを設定すると、eBMC で接続の問題が発生する問題を修正しました。 ・eBMC NCSI タイムアウトの問題を修正するために実施されたドライバのリセットにより、Linux NCSI デバイスドライバで use-after-free のバグが発生する問題を修正しました。 ・ASMI の Dump ページで特定のフィルター条件が表示されない問題を修正しました。 ・ユーザーが自分のアカウントを削除すると、誤った通知が表示される問題を修正しました。この問題は、自分のアカウントを削除する場合にのみ発生します。 ・ポリシーページでエラーが発生した場合でも、トグルが新しい値に更新されて見える問題を修正しました。 ・読み取り専用権限を持つユーザーが CSR を生成しようとしたときにエラーメッセージが表示されない問題を修正しました。 ・ASMI で既存の DNS IP を再構成すると、GUI がその IP をスキップするのではなく、重複する IP を表示する問題を修正しました。 ・アラートに「not managed by HMC」というフレーズが誤って含まれる問題を修正しました（このメッセージを削除しました)。この問題は、システムの電源がオンの時にユーザーが ASMI 経由で Memory ページに移動すると発生します。 ・SRC B113E504 発生時、正しい故障部位を指摘するよう修正しました。 ・メモリ初期化エラーのサブセットに誤ったエラーが発生する問題を修正しました。 ・DDR5 DDIMM の故障によって発生するエラーコードが、障害のあるハードウェアを特定するのではなく、ファームウェアを特定する問題を修正しました。 ・DDR5 DQS の定期的な再キャリブレーションと sPPR(ソフト DRAM 行修復)の 2 つの低確率操作が時間的に重複した場合、両方の操作が次々に正常に実行される問題を修正しました。
ML1060_088_053 (FW1060.20)	・CVE-2022-0480 および CVE-2023-6531 のセキュリティ問題を修正しました。 ・EMX0 IO ドロワおよび ENZ0 IO ドロワで、ケーブルまたはその他の関連ハードウェアをエラーとして指摘する問題を修正しました。これにより、リンクがデグレードする可能性があります。ほとんどの場合、ログに記録される SRC は、B7006A80、B7006A85、B7006A88 および B7006A89 です。 ・一部のハードウェアのエラーで指摘部位の精度が低下する問題を修正しました。 ・PCIe スイッチの修正可能エラーがスイッチ上で溢れ、FFDC データの損失、システム管理操作の遅延および HWMC の Incomplete につながる可能性がある問題を修正しました。この修正により、修正可能エラーをシステムファームウェアでマスクし、システムファームウェアの操作に影響を与えなくなります。 ・SRC B7006xxx のコールホームに関する問題を修正しました。この修正により、プラットフォームイベントログにコールホーム属性が正しく設定されるようになります。 ・システムが MDC モード（HWMC 無しモード）で動作しているときのデフォルトパーティションの最大メモリを変更しました。本変更により、最大メモリがシステムに取り付けられているメモリの合計に設定されます。以前は、インストールされているメモリからハイパーバイザのメモリ消費量の一部を差し引いたものに設定されていました。 ・ランタイム・プロセッサ診断機能が使用不可の場合、MDC モード（HWMC 無しモード）で稼働しているシステムのデフォルトパーティションにすべてのメモリが割り当てられない問題を修正しました。 ・LPAR インタフェースから FRU 障害または識別 LED の状態を見たときに誤って報告される可能性がある問題を修正しました。この問題は、システムの IPL 時に FRU 障害または識別 LED の両方がアクティブになっている場合にのみ発生します。 ・PowerVM が使用する OpenSSL の組み込みバージョンを 3.0.15 に更新しました。 ・毎日の TPM ヘルスチェックを提供するための機能強化が行われ、TPM 障害の事前通知が可能になり、LPM、中断を伴うシステムダンプなど、TPM に依存する操作を実行する前に対処できるようになりました。この毎日の TPM ヘルスチェックが最初の 2 回失敗すると、新しい情報 SRC B700900D が投稿されます。3 回失敗すると、TPM は障害としてマークされ、代わりに既存のサービス可能な TPM 障害 SRC が投稿されます。 ・12V 電源のカレントシェア警告を示す SRC 110015F1 が発生する問題を修正しました。エラーのかわりに、″12V current share warning″というメッセージをジャーナルに記録します。 ・Redfish プロセッサのリンクパスの下にサブプロセッサエントリが欠落していた問題を修正しました。 ・ASMI で最小 Ship Level を表示するように変更しました。 ・スイッチ静止状態中にホストブートダンプが収集される問題を修正しました。これは、フィールドコアオーバーライド(FCO)値が設定され、他のプロセッサが手動でデコンフィグされている場合のセルフブートエンジン(SBE)エラーが原因です。 ・ASMI でファンコネクタコンポーネント名が正しくラベル付けされない問題を修正しました。 ・オペレータパネルの Panel function 75 で eBMC をリセットする機能を追加しました。 ・非推奨の暗号ブロックチェーン(CBC) モードを使用する HTTPS 暗号が削除される問題を修正しました。 ECDHE-RSA-AES128-SHA256 and ECDHE-RSA-AES256-SHA384. 残りの HTTPS 暗号スイートは次のとおりです。″ ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384, ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384, ECDHE-ECDSA-CHACHA20-POLY1305, ECDHE-RSA-CHACHA20-POLY1305,

	ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256, ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256, ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384, and ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256. ・ユーザーが Redfish ツリーを移動しているときに、総電力センサーに誤ったリンクが返される問題を修正しました。 ・ASMI の読み取り専用ユーザーに表示されるべきではないエラーメッセージと共に情報メッセージが誤って表示される問題を修正しました。 ・サーバ起動中に eBMC が静止状態になり、回復するために eBMC の再起動が必要になる問題を修正しました。 ・eBMC NCSI タイムアウトの問題を修正するために導入されたドライバのリセットにより、Linux NCSI デバイスドライバの既存の use-after-free バグが顕在化する問題を修正しました。 ・ASMI の読み取り専用ユーザーが Policies のすべてのトグルボタンを設定可能なように見える問題を修正しました。 ・ユーザが設定した DHCP UseDomainName ステータスが、ASMI または redfish コマンドによる設定変更後に正しく表示されない問題を修正しました。 ・すでに別のダンプ生成が進行中であるときに、新しいダンプの生成時に正しいエラーメッセージがユーザーに表示されないという問題を修正しました。 ・リソース ダンプの生成時にユーザーが成功または失敗の通知を受け取らない問題を修正しました。 ・BMC HTTPS インターフェイスは、非推奨の CBC モードを使用する暗号スイートを削除し、GCM モードを使用するスイートを追加しています。 削除されるスイートは次のとおりです。 ECDHE-ECDSA-AES256-SHA384, ECDHE-RSA-AES256-SHA384, ECDHE-ECDSA-AES128-SHA256, ECDHE-RSA-AES128-SHA256 追加されるスイートは次のとおりです。 DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256, DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 DHE-RSA-CHACHA20-POLY1305 サポートされている HTTPS 暗号スイートは次のとおりです。 ECDHE-ECDSA-AES128-GCM-SHA256, ECDHE-RSA-AES128-GCM-SHA256, ECDHE-ECDSA-AES256-GCM-SHA384, ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384, ECDHE-ECDSA-CHACHA20-POLY1305, ECDHE-RSA-CHACHA20-POLY1305, DHE-RSA-AES128-GCM-SHA256, DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384, DHE-RSA-CHACHA20-POLY1305 ・この変更により、eBMC メモリエラー(修正可能と修正不可能の両方)のエラーログが追加されます。修正可能エラーの SRC は BD50F302 であり、修正不可能エラーの SRC は BD50F303 です。 ・IBM CertHub の証明書生成機能で、CSR (証明書署名要求) に OU(組織単位) 値を含める必要がある問題を修正しました。IBM CertHub は OU が必要ですが、eBMC は OU フィールドの入力を求めないため、eBMC から生成された CSR ファイルは、CA 署名付き SSL 証明書の作成に失敗します。この修正により、ユーザーは CSR の作成中に ASMI に OU を追加するように求められます。 ・システムクロックに障害が発生して構成解除されると、システムが無限に再起動する問題を修正しました。 ・ハードウェアエラーの報告を改善するために、ファームウェアに変更が加えられました。 ・一部の定期的なテレメトリ収集ルーチンの効率を向上させるために変更が加えられました。 ・サーバ起動中に DIMM が検出されないときに、DIMM が正しく構成解除されない可能性がある問題を修正しました。これにより、初期 DIMM 存在検出に関連する問題が修正され、存在して機能している DIMM が構成解除されません。 ・メモリの予測ログとともに余分な SRC BC8A2871 を通知する問題を修正しました。 ・DIMM の電源コンポーネントから繰り返される I2C 障害の重複エラーログを削減しました。 ・テレメトリログのデータ損失をしないように 2 つのレジスタを読み取るシーケンスを入れ替えました ・一部のハードウェアエラーの処理を改善しました。 ・CVE-2023-45871 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2024-41781 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2024-26665 のセキュリティ問題を修正しました。
ML1050_078_052 (FW1050.20)	・CVE-2024-31916 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2024-35124 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2024-41660 のセキュリティ問題を修正しました。 ・SRC BC10E504 を伴ってパーティションやサーバがハングする可能性のある問題を修正しました。 ・RAM メモリ コントローラーのコア電圧を上げて、動作マージンを増やすように変更しました。本対策は、SRC BC20E504 のワード 8 が 30500005、30500019、44220005 または CCCC0002 のいずれかである OMI 低下状態になったエラーに対処します。 ・メモリの一時的なエラーを軽減するために問題を修正しました。本対策は、SRC BC20E504 のワード 8 が 30500005、30500019、44220005 または CCCC0002 のいずれかである OMI 低下状態になったエラーに対処します。 ・CVE-2023-45857 のセキュリティ問題を修正しました。この問題は、Web ブラウザにアクティブな BMC セッションがあり、ブラウザが悪意のある Web サイトにアクセスした場合に発生する可能性があります。この問題を回避するには、アクセスが不要な場合は BMC セッションからログアウトし、eBMC と他の Web サイトの両方に同じブラウザを使用しないでください。 ・CVE-2023-37453 のセキュリティ問題を修正しました。

	・ENZ0 IO ドロワによって生成された PEL (プラットフォーム・イベント・ログ) が適時に記録されない問題を修正しました。この修正により、ENZ0 PCIe4 拡張ドロワーによって生成された PEL は、問題が発生したときにログに記録されます。 ・EMX0 IO ドロワで、ケーブルの温度アラームまたは電源アラームを呼び出す問題を修正しました。ログに記録される最も可能性の高い SRC は、B7006A99、B7006AA6、B7006AA7 です。 この修正は、EMXH ファンアウト・モジュールを備えた EMX0 IO ドロワが接続されているシステムにのみ関係します。 ・SRC B7006xxx がコール・ホームとして設定されない問題を修正しました。この修正により、プラットフォームイベントログにコールホーム属性が正しく設定されるようになります。 ・IO ドロワケーブルがエラーの原因である可能性がある場合に、FRU コールアウト・リストに IO ドロワケーブルが含まれない問題を修正しました。この修正により、SRC B7006A84 の一部が SRC B7006A85 または SRC B7006A89 に変更され、IO ドロワケーブルが FRU コールアウト・リストに正しく組み込まれます。 ・EMX0 および ENZ0 IO ドロワの SRC B7006A74 および SRC B7006A75 イベントを誤ってサービス可能イベントとして呼び出す問題を修正しました。本対策は、SRC B7006A74 および SRC B7006A75 をイベントを情報としてログに記録します。 ・プラットフォームイベントログに含まれる IO ドロワケーブルペアのシリアル番号に関する問題を修正しました。 ・eBMC の再起動または eBMC のリセットで、オンチップ コントローラー (OCC) がアクティブにならない問題を修正しました。回避策として、BMC を再起動すると OCC がアクティブになる場合があります。 ・First Failure Data Capture (FFDC)のキャプチャーに関するまれな問題を修正しました。障害発生時に SRC B7000602 が作成され、HWMC でサーバーの状態が Incomplete になる可能性があります。 ・LPM において、ソース側サーバの LPAR 削除中に「ファームウェア用のメモリ不足」エラーが原因で LPM が失敗する問題を修正しました。 ・ハイパーバイザー障害が原因でシステムが終了した場合に、プラットフォーム・システム・ダンプに正しい SRC が含まれない問題を修正しました。 ・プラットフォーム・システム・ダンプの作成とオフロードに関するまれな問題の問題を修正しました。障害発生時に SRC B7000602 が作成されます。この修正により、プラットフォーム・システム・ダンプを正常に作成およびオフロードできるようになります。 ・TPM ハードウェア通信が不安定になると、散発的な LPM (ライブ パーティション モビリティ) 障害が発生する可能性がある問題を修正しました。この修正により LPM 操作に堅牢性が追加され、より安定した TPM ハードウェアまたはお客様が構成した PowerVM System Key を優先し、不安定と見なされる TPM ハードウェアの使用を回避できます。 ・LPAR Secure Boot が「Enabled and Enforced」に設定されている場合に OS をブートできるように変更しました。失敗すると SRC BA540010 が報告されます。回避策は、LPAR Secure Boot 設定を「Enabled and Log only」または「Disabled」に変更することです。 ・SMS メニューから NVMe 自己暗号化ドライブ(SED)パスワードを設定する際の問題を修正しました。この問題は、Platform KeyStore (PKS)に新しいパスワードを書き込む時間が長いシステムで発生します。回避策として、NVMe SED パスワードを設定する操作を再試行します。タイムアウト後に以前の書き込みが成功した場合は、パスワードが PKS にすでに存在することを示すメッセージが表示されます。 ・LPAR が SRC BA54504D でエラー・ログを通知する問題を修正しました。この問題は、1 つのコアのみがアクティブなシステムで発生します。 ・Shared processor LPAR にて、プロセッサのディスパッチがまれに遅延する問題を修正しました。この問題は、Capped の Shared processor LPAR か割り当てられたプロセッサで動作する Uncapped の Shared processor LPAR でのみ発生します。この問題は、システムに単一の Shared processor がある場合に発生する可能性が高くなります。SRC B700F142 が生成される場合もあります。 ・Dynamic Platform Optimization (DPO)、メモリガードの回復、またはメモリミラーリングの最適化操作中にシステムがハングする可能性がある問題を修正しました。この問題は、LPAR が POWER9 プロセッサー互換モードで動作している場合にのみ発生します。 ・eBMC が SBE(セルフブートエンジン)ダンプ処理中に informational error ではなく unrecoverable error をログに記録する問題を修正しました。 ・Server operating mode を選択して保存すると、保存後すぐにすべての server power setting が更新される問題を修正しました。本対策にて、オプションを設定して保存した後に server power setting は更新されません。 ・一部のファイルがハイパーバイザーと eBMC との間で正しく転送されない時に、ファームウェアの更新が失敗する可能性がある問題を修正しました。 ・service/admin を使用したユーザーログインがサービスログイン証明書を置き換えられない問題を修正しました。この問題は、ユーザーが証明書を置き換えようとするたびに発生します。 ・BMC ssh キーアルゴリズムを追加しました (ssh-ed25519 および ecdsa-sha2-nistp384)。 ・ホスト鍵アルゴリズムを追加しました(ssh-ed25519 および ecdsa-sha2-nistp384)。 ・起動またはハードウェア障害の後に追加の回復不能なエラーがログに記録される問題を修正しました。 ・ホスト プロセッサと eBMC 間の一部の DMA データ転送が正常に完了しない問題を修正しました。この問題は、SRC BC8A1E07 で識別できます。 ・ユーザーが電源操作を実行するたびに情報メッセージが追加される問題が修正されました。 ・ナビゲーション バーが表示されない問題を修正しました。 ・NMVe ドライブが表示されない問題を修正しました。 ・NVMe センサーが ASMI GUI (ハードウェア ステータス > センサー) に表示されない場合がある問題を

	修正しました。 ・無効な MAC アドレスを設定したときに、error ではなく success が返される問題を修正しました。 ・ユーザーが eth0 で DHCP を有効にすると、eth1 も DHCP 有効になり、ネットワーク設定が失われる問題が修正されました。 ・ホスト名を変更すると、更新に失敗しても ASMI がログアウトされる問題を修正しました。この問題は、[Network] ページでホスト名を変更したときに発生します。 ・ASMI PCIe hardware topology にローカル・ポートの誤ったロケーション情報が表示される問題を修正しました。 ・ユーザーが電源操作を確認していない場合でも、ASMI が「Reload the browser page to get the updated content」というメッセージを表示する問題を修正しました。 ・ユーザーが許容範囲を超える周波数上限値を入力したときに ASM GUI にエラー メッセージが表示されない問題を修正しました。 ・eBMC ネットワークが機能せずに、サーバステータスが No connection となる問題を修正しました。この修正により、BMC NCSI タイムアウト状態が検出されて回復します。タイムアウト状態が検出されると、eBMC イーサネットリンクがリセットされ、ネットワーク接続が回復します。 ・電源オンまたは電源オフ操作中に HMC が NoConnection 状態になる問題を修正しました。 ・読み取り専用ユーザーが制限されたアクションを実行するときに、常に承認されていないメッセージが表示されるとは限らない問題を修正しました。 ・ASMI GUI でオプションの Challenge password を入力すると、ユーザーが CSR を生成できない問題を修正しました (Login -> Security and Access -> Certificates -> Click on Generate CSR). ・ASMI を使用して manual と NTP の間でモードを変更した後、Success メッセージが表示されますが、ASMI GUI が更新されるまで前のモードを使用し続ける問題を修正しました。 ・新しい Certificate signing request (CSR)を作成すると、画面とダウンロードしたファイルに不適切な形式の CSR データが生成される問題を修正しました。この問題は、[Certificates] ページから CSR を作成するときに発生します。 ・構成解除ビットが設定されたサービス不要 (リカバリー可能) イベント・ログのエラー SRC (BD50F138) が誤ってログに記録される問題を修正しました。 ・[Notices] ページに水平スクロール バーが表示されない問題を修正しました。 ・サービスについて記録されたほとんどの監査ログエントリに、監査対象のアクションの Redfish URI が欠落している問題を修正しました。 ・物理システム・アテンション・インディケーター (SAI) のステータスがハイパーバイザーに誤って渡され、OS メニューに正しく反映されない問題を修正しました。 ・ASM GUI で表示される vpd 情報にて、電源装置のシリアルナンバーが不完全あるいは表示されない問題を修正しました。 ・ASMI で表示できる real-time progress codes が期待どおりに表示されない問題を修正しました。この不具合は、サーバの電源をオンしているときに発生します。 ・TLS1.2 を使用して HWMC を接続しているときに、HWMC にレッドフィッシュ・イベントを送信できない問題を修正しました。 ・レッドフィッシュツールの PATCH 操作が失敗する問題を修正しました。 ・SRC BD56100A および BD561008 を伴って、オペレータパネルが使用不可となる問題を修正しました。 ・チェックストップのダンプ収集中にウォッチドッグタイマーがトリガーされると、追加のハードウェアまたはホストブートダンプが作成される問題を修正しました。チェックストップダンプ収集中のウォッチドッグを無効にすることで修正しています。 ・オプティカルアダプタの障害が修正された後でも、エンクロージャーフォルト LED がオフにならない問題を修正しました。 ・ASMI の Event logs のページにて、テーブル内のエントリに対して、2 回切り替えることなく、イベント ログの resolved/unresolved の操作を実行できるよう修正しました。 ・ユーザーが DHCP UseDomainName 構成を制御できない問題を修正しました。この修正により、eBMC が DHCP 提供のドメイン名と連携するように、DHCP UseDomainNames 設定を制御するサポートが追加されます。 ・ユーザーが複数のドメインで機能する CSR を生成できない問題を修正しました。この修正により、複数の代替ドメイン名と SAN 拡張が追加された CSR の生成がサポートされ、この CSR を使用して生成された証明書がこれらの複数のドメインで機能するようになります。 ・PCIe hardware topology ページにエントリがないときにユーザーが検索とフィルター操作を実行できる問題を修正しました。 ・ホスト OS 稼働中に eBMC がリブートされると、eBMC で生成されたダンプが HWMC で管理されていないサーバのホスト OS にオフロードされない問題を修正しました。この修正により、eBMC で生成されたダンプをホスト OS にオフロードできます。事象発生時は、サーバを Off/On することで、ダンプがホスト OS にオフロードされます。 ・eBMC で CSR が生成されない問題を修正しました。 ・ハードウェアメモリエラーによってメモリミラーリングが無効になる問題が修正されました。その後のメモリエラーの組み合わせにより、サーバーがクラッシュする可能性があります。 ・DDIMM が一時的なバスイベントに耐えられるように修正しました。 ・BC8A05xx で始まる一部の SRC の記述 (例: BC8A0513) に誤った記述が含まれている問題を修正しました。

	・eBMC に送信される単一のエラーログ（別名 PEL）のサイズを安全に制限して、サーバの起動が失敗しないように修正しました。このサイズのエラーログは非常にまれです。 ・NVMe センサーを認識できないことによりファンが高回転する問題を修正しました。 ・eBMC の HTTPS サーバーが非推奨の CBC 暗号化アルゴリズムを提供する問題を修正しました。この修正により、eBMC の HTTPS サーバーによって提供されるアルゴリズムから CBC アルゴリズムが削除されます。
ML1050_059_052 (FW1050.10)	・EMX0 PCIe Gen3 I/O ドロワで、ケーブルまたはその他の関連ハードウェアを呼び出してリンクのパフォーマンス低下につながる可能性がある問題を修正しました。ログに記録されるシステム参照コードは、SRC B7006A80、SRC B7006A85、SRC B7006A88、SRC B7006A89 です。この修正は、EMXH ファンアウト・モジュールを持つ EMX0 PCIe Gen3 I/O ドロワが接続されているシステムにのみ関連します。 ・すべての SRC B7006A32 エラーがサービス可能イベントとして報告されるように変更が加えられました。これらのエラーは、I/O ドロワからシステム装置内のケーブル・アダプターへの PCIe リンク速度が低下した場合に発生します。この修正を適用すると、次回のシステム IPL で、これらのリンク速度低下に対してサービス可能イベントが生成される場合があります。 ・まれにファームウェアがメモリ不足状態になり、機能の喪失やシステムの停止につながる可能性がある問題を修正しました。この問題は、PowerVM NovaLink クラウド・ホスティング環境など、システム・リソースの照会が頻繁に行われる場合に発生することがあります。 ・サイズが 4 GB (4294967296 バイト) 以上のダンプ（主に SYSDUMP ファイル）が AIX または Linux オペレーティング・システムに正常にオフロードされない問題を修正しました。この問題は、主に SYSDUMP ファイルなどの大きなダンプ・ファイルに影響しますが、4 GB に達するか、4 GB を超えるダンプ（RSCDUMP、BMCDUMP など）に影響を与える可能性があります。この問題は、ダンプが OS に直接オフロードされる HMC 管理されていないシステムでのみ発生します。このようなダンプをオフロードしようとすると、構成された OS ダンプ領域が使い果たされるまでダンプファイルが OS に書き込まれ続け、後続のダンプをオフロードする機能に影響を与える可能性があります。結果のダンプ・ファイルは無効になり、ダンプ・スペースを解放するために削除できます。 ・プラットフォーム・ダンプが使用できなくなる可能性がある問題を修正しました。この問題は、128 MB の論理メモリ ブロック（LMB）サイズを使用中に、まれに発生します。この問題は、128MB より大きい LMB サイズを使用することで回避できます。 ・共用プロセッサー・モードを使用するように構成され、上限付き（Capped）に設定されたパーティションが、割り当てられた処理単位を十分に活用できない可能性があるという問題を修正しました。この問題が発生した場合にこれを軽減するには、パーティションプロセッサの設定を上限なし（Uncapped）に変更します。 ・ASM GUI で適切なエラーメッセージがユーザーに表示されない問題を修正しました。この問題は、システムの電源オフ状態のときにユーザーがリソース・ダンプを要求している場合に発生することがあります。 ・システム状態が静止状態に変わってから 1 分以内に、ユーザーが Redfish コマンドを使用して FRU 構成解除レコード（Deconfiguration record）を照会すると、Redfish コマンドは内部サーバーエラーで失敗する問題を修正しました。この修正により、ユーザーは、システムが running/quiesced 状態になるとすぐに、構成解除レコードを照会できます。 ・HMC ユーザー・インターフェースとして Chrome ブラウザーを使用し、eBMC ASMI にパススルーする場合の問題を修正しました。ユーザーが ASMI からログアウトすると、HMC もログアウトされます。この修正により、ASMI ウィンドウは閉じますが、HMC はログインしたままになります。 ・eBMC のアカウントが削除または変更されたときに、eBMC がユーザーセッションを自動的にログアウトしない問題を修正しました。回避策として、eBMC ユーザーアカウントを削除または変更する場合は、eBMC ASMI メニューの Security and access > HMC and user sessions をクリックし、接続を Disconnect することを検討してください。 ・eBMC ローカルユーザーのロールが変更され、そのユーザーの既存の eBMC Web セッションに新しい役割がすぐに反映されず、セッションが以前の役割で続行される問題を修正しました。回避策は、ローカルユーザーのロールを変更しないことです。ユーザー・ロールを変更する必要がある場合は、eBMC ASMI メニューの Security and access > HMC and user sessions をクリックし、接続を Disconnect してください。 ・eBMC ASMI の「Event Logs 」ページで、他のメニューから「Event Logs 」サブメニューをクリックしたときに、GUI ヘッダーのヘルスステータスが緑から赤にちらつく問題を修正しました。 ・eBMC リセットのリロード中に、障害のある電源装置の電源装置 fault LED が消灯する問題を修正しました。 ・システムの実行中に NVMe ドライブを取り外すと、システムファンが短時間高速に動作する問題を修正しました。 ・OS によってスケジュールされるホストの電源オン/オフ機能の問題を修正しました。ホストの電源をオンにする時刻がスケジュールされ、そのスケジュールされた時刻に eBMC が再起動された場合、電源オンは行われず、将来のスケジュール設定は不可能になります。 ・HMC と eBMC の間の接続数が HMC と eBMC の間で許可されている最大接続数を超えた場合に、HMC 接続が No connection 状態になる問題を修正しました。 ・不良コアがデコンフィグされず、システムが繰り返しクラッシュする問題を修正しました。サービスを必要とする SRC の形式は BxxxE540 です。この問題は、不良ハードウェアを交換するか、手動でデコンフィグすることで回避できます。 ・サービス・プロセッサー・ファームウェアのセキュリティー問題は、curl ライブラリーを 8.1.0 以降の最新バージョンにアップグレードすることによって修正されました。この問題の Common Vulnerabilities and Exposures の番号は CVE-2023-28322 です。

	・メモリエラーによりメモリミラーリングが無効になる問題を修正しました。その後のメモリエラーとの組み合わせにより、システムがクラッシュする可能性があります。この修正により、これらのメモリエラーでメモリミラーリングが無効になるのを防ぎます。 ・必要のないプロセッサーFRU の保守が要求される問題を修正しました。サービスを必要とする SRC の形式は BxxxE504 で、PRD 署名記述は(OCC_FIR[45]) PPC405 キャッシュ CE と一致します。この問題は、後続の IPL で問題が再発しない限り、無視できます。再発した場合は、ハードウェアの交換が必要になります。 ・CVE-2021-3505 の vTPM2.0 セキュリティ問題を修正しました。
ML1030_075_052 (FW1030.40)	・CVE-2023-33851 のセキュリティ問題を修正しました。 ・CVE-2023-46183 のセキュリティ問題を修正しました。 ・PCIe スロットの電源がすでにオンになっているときに、2 回目のスロット電源オン処理が発生する可能性がある問題を修正しました。この動作により、古いマイクロコードのアダプタで障害が発生する可能性があります。 ・パーティションの System Management Services (SMS) メニューにアクセスするときに、System Reference Codes (SRC) が表示を上書きする問題を修正しました。 この問題は、ハードウェア管理コンソール(HMC)によってシステムが管理されていない AIX パーティションで発生する可能性があります。 ・システムが HMC 管理されていない場合に、システムを HMC 管理対象として報告するエレクトロニック・サービス・エージェントに関するファームウェアの問題を修正しました。 これは、HMC で管理されていないシステムの ESA 機能に影響を与える可能性があります。 ・論理パーティションへのメモリの割り当てに関して、プロセッサと論理パーティションのメモリ割り当て間のアフィニティが最大化されない問題を修正しました。 この問題は、システムがメモリに制約のあるシステム上で Active Memory Mirroring (AMM) を利用している場合に発生する可能性があります。これは、AMM を使用できるシステムにのみ適用されます。 回避策として、Dynamic Platform Optimizer (DPO) を実行してアフィニティを向上させることができます。 ・システムの IPL(初期プログラム ロード)後にシステムメモリの一部が論理パーティションに割り当てられない可能性がある問題を修正しました。 この問題は、すべてのシステム・メモリーが以前に論理パーティションに割り当てられていた時の、システム IPL 後に発生する可能性があります。 回避策として、DLPAR (動的論理パーティショニング) を使用するか、目的のメモリ構成のプロファイルを使用してパーティションをアクティベートすることによって、使用可能なメモリを論理パーティションに割り当てることができます。 ・ネットワークアダプタが VLAN タグで設定されている場合、SMS メニューからの起動が失敗する問題を修正しました。 この問題は、SMS メニューからのブート中に VLAN ID が使用され、スイッチなどの外部ネットワーク環境がサーバへ着信 ARP 要求をトリガーした場合に発生します。この問題は、SMS メニューで VLAN ID を使用しないことで回避できます。VLAN は OS をインストールした後に設定できます。 ・SMS メニューの I/O Device Informaion を使用して SAN デバイスを一覧表示するときに報告されるエラーまたはパーティションのハングの問題を修正しました。SRC BA210000、BA210003、または BA210013 の 1 つ以上がログに記録されます。 回避策は、パーティションにゾーニングされた各 WWPN に少なくとも 1 つの LUN がマッピングされていることです。故障発生時は、パーティションコンソールに次のようなテキストが表示される場合があります: Detected bad memory access to address: ffffffffffffffff Package path = / Loc-code = ... Return Stack Trace ---------- @ - 2842558 ALLOC-FC-DEV-ENTRY - 2a9f4b4 RECORD-FC-DEV - 2aa0a00 GET-ATTACHED-FC-LIST - 2aa0fe4 SELECT-ATTACHED-DEV - 2aa12b0 PROCESS-FC-CARD - 2aa16d4 SELECT-FC-CARD - 2aa18ac SELECT-FABRIC - 2aae868 IO-INFORMATION - 2ab0ed4 UTILS - 2ab6224 OBE - 2ab89d4 evaluate - 28527e0 invalid pointer - 2a79c4d invalid pointer - 7 invalid pointer - 7 process-tib - 28531e0 quit - 2853614 quit - 28531f8 syscatch - 28568b0 syscatch - 28568b″ ・ライブパーティションモビリティ(LPM)が HSCLB60C メッセージを表示して失敗する問題を修正しました。問題が発生すると、ターゲットパーティションが再起動されます。このエラーは、大量のメモリー(32TB 以上)が

	構成されているパーティションの LPM で、ムーバー・サービス・パーティション (MSP) として指定されたバーチャル I/O サーバー(VIOS)への接続の 1 つで LPM フェイルオーバーが開始された場合に発生する可能性があります。 ・ライブパーティションモビリティ(LPM)が HSCLB937 エラーにより失敗する問題を修正しました。この問題は、電源オフ状態または障害状態のために VIOS にアクセスできないかつ、システムで「Allow Migration with Inactive Source Storage VIOS」フィーチャーが有効になっている(デフォルトで有効になっている)場合に発生することがあります。回避策として、VIOS をリカバリーするか、--usecurrdata オプションを指定し、VIOS の古いコピーを使用して LPM 操作を再試行することができます。 ・サスペンドフェーズ中の論理パーティションのライブパーティションモビリティ(LPM)がハングする可能性がある問題を修正しました。OS によって無視される中断プロセス中にエラーが発生した場合、移行がハングする可能性があります。この問題は、まれに発生します。システムまたはマイグレーションに関係する VIOS パーティションをリブートすることでハング状態を回復することができます。 ・eBMC ASMI で Permanent Memory COD (Capacity On Demand) リソースをアクティベートすると、リソースの eBMC ビューに誤ったアクティブ化量が表示される問題を修正しました。HMC 経由で Permanent Memory COD を表示および管理すると、常に正しい値が表示され、ここでは影響を受けません。 ・VIOS やハイパーバイザーのハングを引き起こす可能性のある VIOS へのデータの読み取り/書き込みエラーをより適切に処理するために、ライブパーティションモビリティ(LPM)の問題を修正しました。LPM 中に VIOS がクラッシュすると、このエラーが発生する可能性があります。 ・制御がホストに移行し、ホストが IPL の初期段階でロードに失敗したときに生成されるダンプのタイプに関する問題を修正しました。この修正により、どの起動サブシステムが失敗したかを正確に判断し、正しいダンプを取得する機能が追加されました。 ・eBMC ASMI を使用した eBMC ファームウェアの更新が「HSCF0230E An error occurred applying the new level of firmware」を表示して失敗する可能性がある問題を修正しました。これは、eBMC が詳細な監査ログを実行することによってメモリが不足した場合に発生する可能性がある、まれなエラーです。 ・システム上で電源装置の障害または欠落が検出された場合に、エンクロージャ障害 LED がアクティブにならない問題を修正しました。SRC 110015FF/110015F6 がログに記録されます。 ・一部の NVMe スロットのビジュアルインジケーターが OS からオンにならない問題を修正しました。これは、IBM Power System S1014 (9105-41B)システムの NVMe スロットにのみ影響します。 ・メモリリークが原因で、eBMC が静止状態になる問題を修正しました。これにより、HMC 接続が No connection 状態となる問題が発生する可能性があります。eBMC ASMI インターフェイスから eBMC を再起動することで回復します。 ・停電が発生した場合、eBMC の再起動後にシステム・アテンション・インディケーター(LED)が点灯しない問題を修正しました。この修正により、eBMC が再起動されると、停電後にシステムアテンション表示(LED)が点灯するようになります。 ・ファームウェアのダウングレード後に、eBMC ASMI の[Network]ページの IP アドレスが正しく表示されない問題を修正しました。 ・BD802002 の SRC を引き起こす内部エラー処理パスの問題を修正しました。 この SRC は、無効なエラーログがログに記録されているか、ホストによって eBMC に送信されていることを意味します。 ・ユーザーが Server power policy 値を保存した直後に新しい policy 値に変更しようとすると、policy が以前に保存された policy 値に変更される問題を修正しました。 この修正により、Server power policy が新しい policy 値に正しく設定されるようになります。 ・eBMC の再起動後にガードされた FRU の LED 状態が失われるというガードレコード作成の問題を修正しました。 この修正により、eBMC の再起動後も LED がその状態を保持できるようになります。 ・eBMC ASMI の hardware deconfiguration ページで、"Pel ID" 列の名前が "Event ID" に変更され、その列に Pel ID ではなくイベント ID が表示される問題を修正しました。 ・DIMM 総容量の計算エラーが正しくなく、eBMC ASMI (Inventory and LED menu -> System Component-> Total System memory) で 0GB と表示される問題を修正しました。 ・電源投入後 30 秒以内にファンを取り外すと (ローエンドシステムでは 1 つのファン、ミッドレンジシステムでは 2 つのファン)、システムがパワーオフしない問題を修正しました。 ・エンクロージャと FRU の障害 LED がエラーにより点灯し、障害が修正された後でも消灯しない問題を修正しました。 ・プロセッサチップを交換しても、04D9002B ～ 04D90032 の範囲の Hex Word 8 を含む SRC B111E504 が報告される可能性がある問題を修正しました。本修正を適用しない場合は、次のレベルのサポートに連絡することをお勧めします。 ・稼働時保守中に電源オフされた I/O ドロワが、HMC または eBMC ASMI ディスプレイの LED インディケーターの正しい状態を示さない問題を修正しました。これらのインジケーターにはアクセスできませんが、存在として表示されます。回避策として、I/O ドロワの電源をオンに戻すと、LED に再び正しい状態が表示されます。 ・障害のあるケーブルの保守を支援するためのリンク状況 LED の不整合に関する問題を修正しました。 この修正により、LED は「すべて On または Off」になりました。リンクが両方のケーブルにまたがるリンク全体で 1 つ以上のレーンがアクティブになっている場合、両方のリンクアクティビティ LED がアクティブになります。アクティブのレーンがない(リンク トレーニングが失敗)の場合、リンクアクティビティ LED は消灯します。 ・Nest アクセラレータ(NX)GZIP ハードウェア圧縮を実行すると、論理パーティションの性能が低下する可能性がある問題を修正しました。新しい Virtual Accelerator Switchboard(VAS)ウィンドウの割り当てがブロックされ、論理パーティションがソフトウェアベースの GZIP 圧縮にフォールバックした場合に、性能が低下する可

	能性があります。Power9 processor compatibility mode （Power9 プロセッサー互換モード）で動作している論理パーティションのみが影響を受けます。 ″ ・共有プロセッサーパーティションが応答しなくなったり、パフォーマンスが低下したりする問題を修正しました。この問題は、共用プロセッサーを使用する論理パーティションにのみ影響します。専用プロセッサパーティションに変更することでこの問題を回避できます。この問題で論理パーティションがハングした場合は、論理パーティションを再起動することで回復できます。 ・アクティブオプティカルケーブルを被疑部位とする SRC B7006A99 が予測エラーとしてログに記録される問題を修正しました。この SRC は PCIe 機能に影響を与えず、非機能エラーに対する不要なサービス・アク ・ションを防ぐために、通知としてログに記録されます。 ″ ・組み込み I/O(内蔵 USB など)の DLPAR 削除が失敗する問題を修正しました。障害のために、SRC BA2B000B 隠しログも作成されます。このエラーは、スロット・ベースの （ホット・プラグ可能） 入出力の DLPAR 除去には影響しません。組み込み I/O を DLPAR で除去しようとすると、問題が発生し、DLPAR 障害が発生します。 ・最小電力制限が最大電力制限を超えるように定義されているため、特定の電源装置構成で電力上限値を設定できない問題を修正しました。この問題は、eBMC ASMI を使用して、「Resource management ->Power」に移動し、「電力上限値」の下のステートメントを読むことで確認できます。この問題が発生すると、電力上限の最小値が電力上限の最大値よりも大きく表示されます。eBMC は、IPL 中に電源機構構成を取得し、最小および最大電力制限を設定する必要があるため、この修正を適用するためにシステムの IPL が必要です。 ・既存の Static IP アドレスを追加しようとした場合に eBMC で発生する内部 Redfish エラーの問題を修正しました。この修正により、Redfish は、すでに存在する Static IP を追加する要求が行われても正常終了します。 ・IBM i IPL をデフォルトとして「D モード」に変更する工場出荷時のリセットの問題を修正しました。この修正により、工場出荷時のリセット後の IBM i IPL デフォルトが、Power9 システムの動作に一致するように「A モード」に変更されます。 ・HMC GUI 上のシステム・アテンション・インディケーター(SAI)に、eBMC FRU に関する誤った情報がある可能性がある問題を修正しました。これは、eBMC FRU で障害が発生し、eBMC が SAI をオンにするための信号を HMC に送信できなかった場合に発生する可能性があります。または、障害のある FRU が取り替えられ、eBMC が HMC への信号の送信に失敗した場合、HMC GUI の SAI 表示はオフになりません。回避策として、SAI LED の状態は、eBMC ASMI の「Hardware status -> Inventory and LEDs-> System Indicators」ページのセクションに正しく表示されます。 ・eBMC を起動するたびにジャーナルに書き込まれる「lamp test still running」という誤ったメッセージが表示される問題を修正しました。次のメッセージは無視してください:「[Date and Time] … phosphor-ledmanager[326]: Lamp test is still running. Cannot force stop the lamp test. Asserted is set back to true.」 ・eBMC がリソースダンプの作成要求を許可しないが、ダンプマネージャーがリソースダンプを許可する問題を修正しました。この問題は、ハイパーバイザーが Standby または Running 状態ではない場合に発生します。 ・eBMC のコード更新後に、ガード（デコンフィグ）されたハードウェア FRU が eBMC ASMI 上で再び動作可能として表示される問題を修正しました。FRU の状態は、システム IPL が完了し、ガードされた FRU がホストによって再度デコンフィグされた後、訂正されます。 ・IPL 中のシステム・チェックストップ SRC が物理 OP パネルに表示されない問題を修正しました。OP パネルには、チェック停止例外 SRC ではなく、IPL の最後のプログレスコードが表示されます。回避策として、チェックストップ SRC は eBMC ASMI エラーログに PEL として正しく表示されます。 ・システムが eBMC ASMI を使用して「Manual」モードになった後、異なる動作モードを示す eBMC および OP パネルの問題を修正しました。 これは、eBMC GUI によって「Manual」モードに設定し、OS をインストールした後に発生します。システムがシャットダウンされると、eBMC ASMI には「Manual」モードが表示されますが、OP パネルには「Normal」が表示されます。 ・PowerRestore ポリシー「AlwaysOff」の問題を修正し、システム稼働中に電源が失われた後の復電時に自動的にシステムの電源がオンにならないようにしました。この自動電源オンの問題は、eBMC ASMI の PowerRestore ポリシーとして「AlwaysOff」が設定されていると、システムの電源が失われるたびに発生します。 ・eBMC ASMI および Redfish でシステムの合計メモリ容量が正しくない問題を修正しました。回避策として、HMC は取り付けられたメモリーの正しい値を示します。
ML1030_060_026 (FW1030.20)	本 FW バージョンは、S1014/S1024 専用です。 ・ 新規リリース

株式会社 日立製作所 マネージド＆プラットフォームサービス事業部 2026 年 11 月

(c) Hitachi, Ltd. 2026, All rights reserved.